

地域の皆さまと病院をつなぐ

# ごろまるだより

総合犬山中央病院広報誌 GOROMARU dayori

## 新年のご挨拶

ごろまる医療のチカラ

チーム医療と最新機器で患者さんをサポート

総合犬山中央病院の糖尿病治療

糖尿病内科・副院長: 井上 達雄

- ・入院前から退院までの相談・支援のご案内
- ・人間ドック（半日コース）割引サービスのご案内
- ・よく寝て！感染予防 ～質の良い睡眠のためには～ ー感染対策よりー
- ・安全で負担の少ない画像診断の世界 ー放射線科よりー

Photo : 病院のお仕事体験vol.3 2025.8.21



Vol.  
138  
2026  
winter

Vol.  
138

季刊 4 回発行 2006 年 1 月 1 日発行 通巻 138 号 編集・発行人 社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字ニタ子塚 6 TEL 0568-62-8111



## 安全で負担の少ない画像診断の世界 ー放射線科よりー

放射線科では、X線や磁気などを用いて体内の状態を画像化し、病気の診断や治療の支援を行っています。検査は種類が多岐にわたりますが、いずれもできる限り体への負担を軽減し、安全に実施できるよう努めています。



### Pick UP! 乳房撮影装置（マンモグラフィ装置）

乳がんの早期発見に必要である、乳房を撮影するための乳房専用のX線撮影装置です。当院では常に女性放射線技師が担当します。検査時、乳房を圧迫するため痛みを感じる場合がありますが、乳房を均一に広げることで病変を見逃さず、放射線量を減らすために必要な工程です。我々は患者さんの負担を少しでも軽減できるよう配慮し、圧迫時間を最短で行うよう努めています。乳がんは女性の9人に1人が罹患すると言われる身近な病気ですので、安心して検診を受けていただけるよう丁寧に対応します。なお、しこりなどの自覚症状がある方は乳腺外科を受診してください。

## 病院建て替えのための寄付のお願い

病院からのお知らせ

総合犬山中央病院は、1983年の開院以来「地域の人々が安心して暮らせる心の支えとなる病院」を理念に、地域医療を支えてきました。しかし、約40年が経過した現在、施設の老朽化やスペース不足が深刻化し、中核病院としての役割を果たすことが難しくなる可能性があります。そこで私たちは、最新医療設備を導入し、患者様が快適で安心して療養できる環境を整え、地域医療の拠点としての機能を強化する新病院建設プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトの成功には多額の資金が必要であり、地域の皆様からのご支援が欠かせません。地域の健康を守り、安心して暮らせる社会を実現するため、皆様からの温かいご寄付を心よりお願い申し上げます。



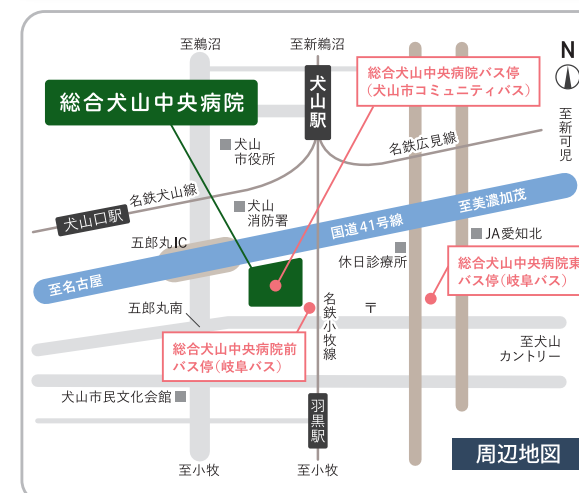
2027年4月開院予定

### 【お問い合わせ先】

社会医療法人志聖会 総合犬山中央病院  
建設推進委員会 事務局 安藤宛  
〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字ニタ子塚6  
[TEL] 0568-62-8111 [FAX] 0568-62-9289  
[Email] info@inuyamachuohospital.or.jp



詳細はこちら



## 社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院

〒484-8511  
愛知県犬山市大字五郎丸字ニタ子塚6  
TEL.0568-62-8111 (代)  
HP <https://www.inuyamachuohospital.or.jp/>

外来受付時間 8:00～11:00  
休診日：日曜・祝日  
面会時間 月曜～金曜 15:00～20:00  
土曜・日曜・祝日 13:00～20:00  
救急は24時間365日受け付けています。

総合犬山中央病院  
理念

地域の人々が安心して暮らせる  
心の支えとなる病院を目指します。

総合犬山中央病院  
@inuyamachuogeneralthospital

総合犬山中央病院チャンネル  
@inuyamachuohospital-pr



# 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

新たな年の幕開けとなりました。皆様はどんな思いで新しい年をお迎えになられたでしょうか。「良馬は後ろの草を喰わず」。今年は馬年ゆえ、念頭にこんなことわざを思い浮かべてみました。過去にこだわらず、未来に向かって進むことの重要性を説いた言葉です。

もちろん、過去には素晴らしい経験があれば、そうでない経験もあることでしょう。

良い経験は大切にしつつも、そうでないことにこだわってはいは前進しません。未来に向けて駆けていくことが大切です。

昨今、マスメディアにもよく取り上げられていますが、医療界、特に病院経営は経済的に厳しい状況に置かれています。

社会医療法人志聖会も例外ではありません。しかし、築43年が経過した本館は耐震機能が低く、

建物の老朽化が進んでおり、患者様の生命を守るには本館の建て替えが必須であると判断しました。

地震の多い日本の環境では、猶予のない状況であると考え、これに舵を切りました。

現本館の南駐車場の土地に建設を進めており、現在は基礎工事の最中です。

地域の方々にハード面における良質な医療環境を提供できるよう努めておりますので、何卒さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。完成まで時間を要しますが、皆様に親しんでいただける建物となることを期待しております。

また、未来に向けてソフト面である医療の質を、これまで以上に高めていきたいと考えております。

昨年、大リーグでは大谷選手をはじめ、山本選手や佐々木選手がワールドシリーズでドラマをつくり、私たちに勇気と感動を与えてくれました。強い信頼と絆で結ばれたチームは、一丸となり優勝を勝ち得ました。私たちスタッフも、日頃支えてくださっている地域の方々に恩返しができるよう、

「総合犬山中央病院が地域にあつてよかった」と思っていただけのように懸命に取り組んでまいります。

まさしく「馬到成功」となることを願っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 竹腰 篤

あけましておめでとうございます。

新春を迎え、改めて皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

昨年九月五日から病院新築本体工事が始まりました。完成は来年一月、同年四月から新病棟での診療開始予定です。

あと一年余りで新生 総合犬山中央病院が誕生します。

患者さんに快適な療養環境を提供し、病院機能の一層の充実を図ります。

新しい病棟の完成を職員一同大きな期待をもって待ち望んでいます。

当院は二〇一九年より医療の質管改善活動に取り組んでおり、

海外から当院の改善活動を視察に来るようになりました。

JICA（国際協力機構）は二〇二四年八月にガーナの医療関係者8名を連れて当院に来られましたが、

二〇二五年八月にはアジア・アフリカ19カ国21名の医療関係者を連れて来院されました。

医療界における5S-Kaizen-TQMをテーマに当院の改善活動の呈示、現場視察を行い、大いに議論しました。

同年九月にはJICAとは別の団体がサウジアラビア保健省の関係者、

アメリカの整形外科病院のマネージャーとともに視察に来ています。

帰国後に当院の改善活動に対する質問やコメントが発信されてきます。

それらは我々にとっても大きな学びの機会となり、院内のカイゼン活動推進に良い刺激となっています。

いまやKaizenは世界共通語となっていますが、改善とは「改めて善をなす」、「現状を改めモノゴトを善くする」、

デミングが言うPDCAサイクルを回すことで、永遠に続く道です。

今年一年、皆様からより一層信頼される病院を目指していきます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長 齊藤 雅也



総合医療法人 西野会  
総合式山中病院

www.西上.医療



西野会総合式山中病院 院長 西野 隆雄

チーム医療と最新機器で  
患者さんをサポート  
総合式山中病院の看護科沿革

看護科の沿革は、昭和24年に  
総合式山中病院が開設された  
頃から始まります。当時は  
看護婦人と呼ばれていた  
看護士が、患者さんの  
ケアに当たっていました。

昭和30年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

昭和40年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

昭和50年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

詳しくは本誌をご覧ください



看護科の沿革は、昭和24年に  
総合式山中病院が開設された  
頃から始まります。当時は  
看護婦人と呼ばれていた  
看護士が、患者さんの  
ケアに当たっていました。

昭和30年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

昭和40年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

昭和50年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。



看護科の沿革は、昭和24年に  
総合式山中病院が開設された  
頃から始まります。当時は  
看護婦人と呼ばれていた  
看護士が、患者さんの  
ケアに当たっていました。

昭和30年代には、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。当時は、看護婦  
人と呼ばれていた看護士が  
患者さんのケアに当たって  
いました。

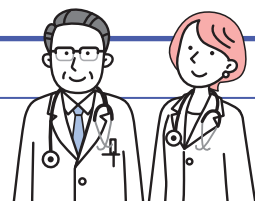




## 健康管理センターからのお知らせ

### ★人間ドック(半日コース)割引サービスのご案内

法人・共済組合などの補助を利用されない一般の半日人間ドックをお申し込みの方を対象に、下記割引サービス制度がございます。この機会をぜひご利用ください。



#### 人間ドック(半日コース) 通常料金 38,500円(税込)のところ



期間限定割引 \*1月～3月の期間に受診  
**34,100円(税込) ★4,000円割引**

夫婦割引 \*ご夫婦で同日受診(1月～3月を除く)  
**36,300円(税込) ★2,000円割引**

誕生日割引 \*誕生日月に受診(1月～3月を除く)  
**37,400円(税込) ★1,000円割引**

グループ割引 \*3人以上のグループで同日受診(1月～3月を除く)  
**35,200円(税込) ★3,000円割引**

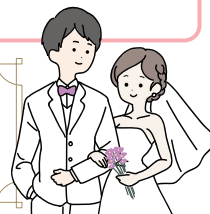
※各種割引サービスとの併用はできかねますのでご了承ください。

#### 1月～3月おすすめセット

LOX-index(血液検査) + 頸動脈エコー検査

**15,500円(税込) ★1,000円お得**

ブライダルチェック各種  
ご好評いただいています。  
お問合せはお気軽にどうぞ



あなたに合った検査をご提供します。ぜひお気軽にご相談、お問合せください。

【ご予約・お問い合わせ】総合犬山中央病院 健康管理センター  
直通(0568)-62-8246 代表(0568)-62-8111



## よく寝て！感染予防 ～免疫力を高めるためには～

### ★生活習慣の工夫★

- ・寝る1～2時間前に入浴する。・寝る前の食事や寝酒、カフェインは控える。
- ・軽く汗ばむ程度の運動を習慣的に行う。
- ・就寝・起床時間は一定にして、体内時計のリズムを乱さないようにする。
- ・朝の光を浴び、朝食をしっかり食べて、睡眠と覚醒のリズムにメリハリをつける。
- ・室温、冬は16℃前後、夏は26℃前後、湿度は50～60%程度にし、寝具は、保温性と吸湿性・放湿性の良い羽毛布団や、肌ざわりが良いものを使う。

不眠でお悩みの方は  
ご相談ください



### 寝つきが良くなる「4-7-8呼吸法」

\*アンドルー・ワイル博士が提唱する  
リラクゼーション呼吸法

4秒かけて  
鼻から息を吸う

7秒間息を  
止める

8秒かけて口から  
ゆっくり吐き出す

これを3～4回  
繰り返す

睡眠中は免疫細胞が活性化し、体の修復を促す成長ホルモンが分泌されます。  
よく寝る事は、風邪やインフルエンザの感染リスクを減らします。



## 地域連携支援センターからのお知らせ

地域連携支援センターでは、安心・安全に入院生活を送り、  
退院後の生活にお繋ぎできるよう、退院支援看護師・社会福祉士が  
入院前から退院までの相談・支援を行っています。

### 入院



#### 【入院時支援】

入院予定の患者様・ご家族様と面談し、入院に関する案内、病棟の説明等を行います。また、日ごろの様子をお聞きし、円滑に入院生活へとお繋ぎするとともに、安心して入院生活を送っていただけるよう支援します。



#### 【病棟カンファレンス】

医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリテーション担当者・退院調整担当者等が会して、患者様の状況を共有、今後の方針について話し合いを行います。また、患者様・ご家族様の意向を共有し、退院に向けての支援体制を相談します。



#### 【面談・リハビリ見学など】

患者様、ご家族様へ現状をお伝えするとともに、今後の方向性について確認を行います。また、必要に応じてリハビリテーション見学や介護指導を実施し、目標や課題等を確認しながら、退院に向けての準備を進めます。



#### 【退院前カンファレンス】

患者様・ご家族様だけでなく、訪問診療医・ケアマネジャー・サービス事業所等、在宅で支援する皆さまに出席いただき、当院の医師・看護師等より入院経過や現状をお伝えします。

入院中から関係機関の方に関わっていただき、退院後の支援体制を検討することで、退院後の生活へ円滑な移行を目指します。

### 退院

退院時には、ご紹介いただいた開業医の先生へ、担当医よりお手紙を作成します。

#### 【相談窓口のご案内】

相談窓口では、患者さんやご家族の入院及び生活に関する不安等、様々な相談をお伺いする窓口です。退院支援看護師、社会福祉士等が対応します。お気軽にお越しください。

◎相談窓口：本館2階 地域連携支援センター内

◎相談時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00 土曜日 8:30～13:00 日祝年末年始を除く

◎連絡先：0568-62-8200